

UK のドラマ教師 ~コロナ禍での学校現場からの報告~

Nikki Kafouris (ニックキー・カフォリス) 演劇教師/コンサルタント

2021.1.27

2020 年 3 月から 9 月まで学校は休校となりましたが、9 月になって教室に子供たちの姿が戻ってきて、とても嬉しかったです。当初、生徒のマスクの着用は学校の判断で決定してよい、ということでしたが、今では着用が義務付けられています。教室内ではなく、廊下を歩く時にマスクの着用が必要なのです。

学校が再開され生徒が戻ってくるにあたり、学校側としても大きく変わる必要がありました。通常セカンダリースクールでは、生徒は授業ごとに教室を移動します。

しかしながら、他の学年の生徒との接触を防ぐため、このスタイルも変更しなければなりませんでした。

そういうわけで、「演劇」という科目は教室での実技が行えず、特に大変でした。

今では、教師の方が移動します。生徒は一日を通して同じ教室で過ごすこととなり、その教室に先生がやってきます。みなさんにもおわかりになると思いますが、これでは学生の集中を保つのが難しいです。それでも、だんだんこれが普通と感じるようになってきました。みんな新しい教え方、学び方に慣れてきました。

しかしながらイギリスでは状況が悪化し、再び新型コロナウイルスが蔓延したため、クリスマス前には学年全員を家に帰らす学校も出てきました。スタッフも生徒も欠席が相次ぎました。

1 月には学校再開と言われており、実際に 1 日だけ再開しましたが、感染率がかなり上がったため、またすぐに休校となりました。

今ではオンラインで授業を続けています。

「演劇」や「体育」といった科目をオンラインで教えるのはとても難しいです。

それでも生徒はこういうスタイルに慣れてきてはいますが…コンピュータを持っていない生徒には、家で勉強が続けられるように政府からコンピュータが支給されました。学校ごとに少しずつやり方が異なりますが、だいたいは Google Meet、Zoom Microsoft、Teams といったオンラインフォーラムを使っています。生徒はだいたい通常の時間割に従ってオンライン授業に参加するよう言われています。

両親も在宅で仕事をしていて、他の兄弟も家にいるという状況の中でこのようにオンライン授業を受けるのは簡単なことではありません。

学校は、ビデオを送ったりすることで、追加のカリキュラムを増やす等の工夫をして生徒の参加を促しています。例えば、オンラインでタレントコンテストを開催したりや、演劇クラブを作ったりしています。

残念なことに、学校が休校になったことで、生徒の心の健康に関する問題が増えました。

学校としては学生のサポートに奔走しているところです。

今、一番大変なのは医師、教師、スーパーの店員等のキー・ワーカーの方々のお子さんたちです。両親が家にいない時のサポートがとても重要となってきます。

イギリスではみな、できるだけ早く学校を再開できることを望んでいますが、現状、感染率はまだまだかなり高い状態です。